

伝統の藍染め 「すくも」作り

佐野高付属中生が体験



すくも作りについて説明する風間さん（右から2人目）

【佐野】佐野高付属中で5日、藍草（タデアイ）栽培から藍染めまでを体験する「藍プロジェクト」の一環として、収穫した葉を発酵させて藍染めの原料「すくも」を作る工程に1年生が挑戦した。

プロジェクトは「伝統文化と環境と国際理解」を進めようと、総合的な学習の時間を利用し6月にスタート。県伝統工芸品の「足利の藍染」を手掛ける足利市伊勢町2丁目、藍染め工房代表風間幸造さん（56）を講師

に迎え、中庭のプランターでタデアイを育ててきた。この日は104人の生徒が3グループに分かれ、プラスチックケースの中で水を含ませもみ込んだ葉をわら袋に入れながら、発酵の準備を進めた。風間さんは「自然からものづくりをする喜びや重要さを感じ取ってもらいたい」と作業を見守っていた。

発酵は1カ月近くかかり、来年1月には藍染めを行う予定。前田歩美さん（13）は「これからも同学年のみんなと頑張りたい。1月にはシャツを染めてみたい」と話していた。

（柴田正人）